

平成 28 年 12 月 14 日

## 平成 28 年度信州リハビリテーション専門学校 学校自己評価報告書

学校法人 松樹学園  
信州リハビリテーション専門学校  
学校評価委員会

学校法人松樹学園信州リハビリテーション専門学校では、学校法人並びに専門学校が果たすべき社会的責任に対して学校自己評価を実施致しました。これは学校教育法の規定に基づき、教育活動その他学校運営を組織的、継続的に確認すると共に、より良い学校運営と家庭、地域との連携協力を得ながら、開かれた学校作りを目指すことを目的とし、教職員が学校の理念・目標に照らして自ら教育活動について行う評価です。本校においては平成 23 年度から取り組んでおり、今回で 6 年目となりました。

今年度も引き続き「学校自己評価」を実施すると共に、併せて「学生による授業アンケート」、「学生アンケート」及び「保護者アンケート」を実施し、評価を行う際の参考と致しました。

評価結果につきましては、50 項目ある自己評価の平均評価値が 4 段階評価（4：良く取り組んでいる、3：まあまあ取り組んでいる、2：あまり取り組めていない、1：全く取り組めていない）で 3.29（昨年度 3.21）となっており、昨年度とほぼ同じでした。また、各アンケートでの満足度は、学生による授業アンケートでは評価 5（満足）と 4（やや満足）の合計回答率が 91.2%（昨年度 91.6%）、学生アンケートと保護者アンケートでは 4 段階評価において、それぞれ 83.6%（昨年度 88.5%）、94.8%（昨年度 96.7%）との結果を得ました。概ね良好な結果が得られたものと判断しますがいずれも昨年度を下回りました。自由記載の内容を踏まえその改善に取り組んでまいります。

学校自己評価を行う事により、自らを振り返り、良い所は更に向上させ、問題点があれば改善・解決し、教職員各自の、そして本校の発展につながるよう努めてまいります。

## 教育方針

理学療法士として、基礎医学による人体の構造と仕組みに関する知識、臨床医学による系統別機能障害と疾病の回復過程に関する知識、専門科目と臨床実習による評価・治療体系に関する知識と技術をそれぞれ有機的に関連付けていくと共に、自己学習とグループ学習を中心として、学生が主体的に学んでいくという姿勢を育成し、免許取得をめざす。

## 教育目標

- ① 優しい心を持つ豊かな人間性とマナーや接遇を含めた深い教養を持ち、医療・保健・福祉や地域と社会に貢献できる人材を育成する。
- ② 関連職種との良好なチームワークを構築するためのコミュニケーション能力を身に付け、チームでの役割と責任を果たせる人材を育成する。
- ③ 理学療法に必要な基礎医学・臨床医学の知識と基本的技術を身に付け、高い思考力により幅広い分野で問題を解決することができる人材を育成する。

## 学校自己評価 評価対象項目別評価結果及び改善方法

評価の基準を右の表に示します。

対象は信州リハビリテーション専門学校  
教職員 9 名です。

《評価基準》	4ー良く取り組んでいる
	3ーまあまあ取り組んでいる
	2ーあまり取り組めていない
	1ーまったく取り組めていない

上段：今年  
下段：昨年

### 1 教育理念・目標・育成人材像等

	評価対象項目	評価結果（平均）	
1	理念・目標・育成人材像は定められているか	3.56	(3.30)
		3.57	
2	学校の特色として挙げられるものはあるか	3.67	
		3.57	
3	学校の将来構想は描かれているか	2.67	
		2.57	

#### 《自己評価結果及び分析》

キャンパスガイドやシラバスに教育方針・教育目標や授業目標を掲示するなどの取り組みをしています。また「接遇」の理解を得るためにも、学校説明会、入学時オリエンテーションや保護者懇談会の際に説明をしています。

学校の将来構想については、教職員の日常業務への比重が高く、教職員間での構想検討の機会不足と考えます。理学療法教育課程の再編が進む中、情勢の共通理解や、組織内で将来展望と構想について理解しておく必要性があります。これは、経営陣との連携も重要といえます。

#### 《改善方法》

本校の基本理念、教育方針、目標を学校パンフレットやホームページにも掲載すると共に、常に意識をしながら職務に専念していきます。また、学生集会や保護者懇談会、学校説明会などにおいても、教育活動についての説明に心掛けます。

学校の将来構想については、業務の円滑化や教職員間の情報共有を図りながら各自が意識し、得た情報や考えを職場内で検討できるよう努めます。教育に関する研修会などへも積極的に参加します。また、法人事務局との更なる密な連携を強化していきます。

## 2 学校運営

上段：今年  
下段：昨年

	評価対象項目	評価結果（平均）	
4	運営方針は定められているか	3.44	(3.29) (3.23)
		3.43	
5	事業計画は定められているか	3.67	
		3.71	
6	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3.00	
		3.14	
7	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3.22	
		3.00	
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.11	
		2.86	

### 《自己評価結果及び分析》

昨年度と比較し改善の傾向と判断します。設問 4～6 に関しては、上位会議での報告や情報の伝達が成されている結果と判断します。学生や保護者への情報配信システムの活用は定着しました。情報に関しては、昨年度から文書整理を行い、まとめ作業と保存期間による分類を行いました。これは業務の効率化につながることを考えます。

### 《改善方法》

上位会議で決定した事項や計画などの伝達がされ、結果や提案・問題報告が遅滞なくされることにより、組織の団結力と理解が深くなるものと考えます。また、各業務の効率化も図られると考えます。設問 6 に関しては、教務と事務の業務分担見直しにより、改善の可能性があると考えます。事務局との協業が必要となります。

情報伝達システムにより、学生・保護者への連絡頻度は増しています。しかし「配信が遅い」との意見もあります。早目の情報配信に心掛けます。保護者においては未登録者もあり、年度当初に限った登録期間の検討も必要と考えます。

## 3 教育活動

上段：今年  
下段：昨年

	評価対象項目	評価結果（平均）	
9	教育目標、育成人材像は、求められる資格及び福祉・医療現場の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3.67	(3.40) (3.33)
		3.57	
10	教育目標、育成人材像を構成する知識、人間性等は、現場の人材ニーズに照らし合わせて、到達可能なレベルとして明確に定められているか	3.22	
		3.00	
11	カリキュラムは体系的に編成されているか	3.56	
		3.29	

12	各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけがされているか	3.44 3.43	
13	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.44 3.86	
14	教育目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.22 2.86	
15	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.22 3.57	
16	資格取得の指導体制はあるか	3.67 3.29	
17	学生個々の特性と能力に応じた教育がおこなわれているか	3.11 3.14	

《自己評価結果及び分析》

教育活動に関しては昨年度を上回りました。法人理念、教育目標・方針に掲げる人物像は、現場ニーズを想定しています。設問 9、10 の結果は昨年を越え、教職員個々の理解と取り組みの結果と判断します。

カリキュラム、科目の編成も見直し、学生個々を把握したうえでの対応と情報共有を心掛けてきました。その取り組みが昨年度からの改善点となり反映されていると考えます。

授業評価は専任教員の科目に関し、学生の授業に対する満足度と改善点の把握を目的に実施しています。授業構成や他科目との調整は、教員間で情報共有しながら検討しています。

設問 14 の教員の確保に関しては、増員されたことにより大きく改善しています。

《改善方法》

各科目を関係付け、学生の理解を深める授業とするためにも、科目相互のつながりと体系的なカリキュラムを編成することが必要です。本年度からカリキュラムが再編され、いくつかの科目の開講時期や、時数が反映されました。また、授業構成や教材についての検討などを実施し、授業の質を高める対策も考えます。非常勤講師に関しては、国家試験の出題傾向を提示するほか、来校時に必ず講義状況と今後の予定確認を行い、連携を図ります。

設問 17 に関しては、個々への対応が特別扱いとならぬよう配慮をし、保護者も含め情報を共有しながら関わりたいと考えます。心や身体の変化も見逃すことの無いよう努めていきます。

4 教育成果

上段：今年  
下段：昨年

	評価対象項目	評価結果（平均）	
18	就職率の向上が図られているか	3.44 3.71	
19	退学率の低減が図られているか	2.78 2.43	(2.89) (2.71)
20	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.44 2.00	

## 《自己評価結果及び分析》

教育成果に関する自己評価結果は昨年同様、分野の中で最低結果の評価項目でした。国家試験合格者の就職率は100%を維持していますが、前期終了時から退学者を出してしまいました。

学生には、複数回の個別面談を行い、必要に応じ保護者への連絡を取りながら対応をしました。メンタル支援として、臨床心理士によるカウンセリングも継続しています。成績不振者には結果が突然の通達や宣告とならない様、事前から現状把握への誘導や対策を講じ、早期からの対応を心掛けましたが3名の退学者が出ました。昨年度の同時期も3名であることからの低い結果と考えます。原因は前期試験を終えての単位不認定から、進路変更によるものです。2名は次の進路を決め、進み始めています。1名は模索中とのことでした。

項目20に関しては、10月に同窓会の設立総会を開会し、新たなスタートを切りました。これにより、卒業生の情報収集や集う機会が生まれ、在校生とのつながりにも大きな効果をもたらすものと期待しています。

## 《改善方法》

就職率は100%を維持していますが、情勢に伴い今後の医療機関からの求人状況に変化が現れることが予測されます。希望や要望に対して適切な職場の紹介ができるよう、教職員も情報把握を意識しています。今後も入学時より就職に向けての意識付けをしつつ、採用試験や面接、作文や礼節に対する指導も行っていきます。また、引き続き保護者への情報提供も行います。

退学者の低減に関しては、厳しい理学療法士への夢を更に高めることができるよう、機会に触れ伝えていきます。また、1年生と担任が交わす「新入生ノート」が重要な情報源となっており、継続して実施し心の言葉を見落とすことなく、変化があれば早期に対応していきます。学生支援も継続しながら、保護者・ご家庭と連絡を密に取り情報共有を行います。

同窓会の設立は一つのきっかけに過ぎません。今後どのように活動するかが重要ですので、学校が事務局として支援できるよう関わっていきます。在学時から先輩後輩間での交流や、合同演習などにより、母校への思いも高まる機会となるのではと期待します。また、在校生に関してはボランティアの斡旋を、継続して取り組んでいきます。

上段：今年

下段：昨年

## 5 学生支援

	評価対象項目	評価結果（平均）	
21	就職・進学指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか	3.56	(3.06) (2.82)
		3.57	
22	学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか	3.56	
		3.43	
23	学生の経済的側面への支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3.11	
		3.00	
24	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	3.11	
		3.00	
25	課外活動に対する支援体制が整備され、有効に機能しているか	2.67	
		2.43	
26	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	1.89	
		1.57	

27	保護者と適切に連携しているか	3.78	
		3.57	
28	卒業生への支援体制はあるか	2.78	
		2.00	

《自己評価結果及び分析》

学生支援に関しては昨年度を上回りましたが低い評価結果となりました。中でも例年の事となってしまうのですが、項目 26 の学生寮や食堂などの環境が用意できていないことが原因と考えます。項目 25 も低値ですが、ボランティアへの教員同行なども行い、次への足がかりとなるよう試みています。項目 28 の卒業生への支援体制は、国家試験不合格者への聴講生制度を設けてはいますが、卒業研修なども含め今後の検討課題です。

反面、在校生や保護者への対応は高値となりました。個別面談や専門家による学生相談への誘導など行いながら、日常生活指導や学生支援を行いました。必要に応じ保護者も交えた面談も行い、支援体制の確認や連携の強化に努めています。年間複数回開催した懇談会へも多く方が参加され、それらによる結果と判断します。

項目 23 の経済的側面への支援に関しては、新たに入学者への学費減免や成績優秀者の負担減免制度などを作りました。今後は広報も課題と考えます。

《改善方法》

立地条件から、学生寮の建設や電車増便などでの対応は不可能と考えます。現状では塩尻駅周辺に適切条件での物件斡旋や何らかの援助による対応が手段となりますが、経費も含めた十分な調査や検討が必要です。学校説明会では 2 社が参入し、物件の斡旋をしています。今年はこの業者に冬季間みの賃貸物件を紹介してもらうよう依頼をしました。

課外活動等の支援については、学生のニーズを把握し、必要な援助・支援を行える体制を整えることが望まれます。それには学生の声が届く環境を作ることが必要と考えます。また、ボランティアや研修会などの情報は引き続き広報し、必要に応じ同行や援助・指導をしていきます。

6 教育環境

上段：今年  
下段：昨年

	評価対象項目	評価結果（平均）		
29	施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか	3.56	(3.41)	
		3.00		
30	施設実習等について十分な教育体制を整備しているか	3.33		(3.10)
		3.29		
31	防災に対する体制は整備されているか	3.33		
		3.00		

《自己評価結果及び分析》

良好な結果と判断します。施設・設備の状態に対しては常に配慮し、使用時に支障をきたすことの無いようにしていますが、経年劣化や損傷により修理・交換が必要な例が増えてきました。学生ホールの雨漏りは、手を入れているのですが修繕されておらず、継続課題です。

施設実習については、各実習指導者との連絡も密に行っています。しかし追加での依頼により必要施設を確保する状態であり、今後の課題と言えます。実習施設により指導体制・目標設定・

評価に差があり、保護者からも意見をいただいています。指導者会議だけでなく実習施設訪問などでの情報交換や密な対応を心掛けてきました。こちらの要望や意見も伝えることができる関係作りが理想です。

防災訓練は年 2 回実施し、現実を想定した訓練設定を心掛けています。地域の避難所としての備蓄対応は継続した課題となっています。

#### 《改善方法》

施設・設備の現状が維持されるよう、継続して定期的な点検により管理していきます。特に使用時に不備が発覚することの無いよう、事前に確認するよう努めます。雨漏りについては、その都度、業者に連絡を入れていきます。

実習に関しては、県内での実習受け入れを増やすよう、施設訪問を行う予定です。実習内容については、指導者との連絡を密にとり、教育と臨床で実習内容や課題についての共通見解を持ち、学生に対し押し付けとならないよう心掛けます。

## 7 学生募集と受入れ

上段：今年

下段：昨年

	評価対象項目	評価結果（平均）	
32	学生募集活動は、適正に行われているか	3.44 3.86	(3.39) (3.57)
33	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.33 3.29	
34	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3.56 3.86	
35	学納金は妥当なものとなっているか	3.22 3.29	

#### 《自己評価結果及び分析》

良好な結果と判断します。高校訪問は資料請求者や受験者など過去の情報から訪問校を絞り、2 回行っています。同様にガイダンスへの参加も厳選し参加しました。ガイダンスをきっかけとしての学校説明会参加者や受験者がみられたことは成果と考えます。ホームページも新着情報を掲載するよう心掛けています。入学者においては、目的意識と学習意欲が高く優秀な人材が求められ、なおかつ 3 年間で卒業できることが理想です。しかし、少子化、大学志向の現状では、一人でも多くの受験者数を上げることが、最優先課題となってきました。新たな PR の展開も必要と考えます。

#### 《改善方法》

受験者数を増やすことが必要で、自他に渡りあらゆる角度からの情報把握が必要です。またホームページを中心に情報を遅延無く配信していきます。高校訪問は継続しますが、訪問時期を再検討します。また、対象者に会う機会があれば活用し、機会があれば保護者と接することを積極的に行っていきます。学生支援体制の整備も重要ですので、事務局とも連携し早期に決定し広報できるよう努めます。

上段：今年  
下段：昨年

## 8 財務

	評価対象項目	評価結果（平均）	
36	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.11	(3.14)
		3.14	
37	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.33	
		3.43	
38	財務について会計監査が適正に行われているか	3.44	(3.25)
		3.57	
39	財務情報公開の体制整備はできているか	2.67	
		2.86	

### 《自己評価結果及び分析》

財務基盤には入学者数と在学者数の確保が必要です。予算に関しては、年度当初に編成を行い管理されています。全員で経費節減に努めてきました。

項目 39 の財務情報については、理事会、運営会議の報告はされているようですが、全ての教員に公開されているわけではありません。また、情報公開はされていないことから低値となっていると判断します。

### 《改善方法》

十分な財務基盤のために、新入学生の確保と休学・退学者の阻止、経費節減を意識していきます。また、教職員は財務に関し、可能な範囲で情報が共有できるよう管理者に確認をしつつ、現状と今後への展開を理解できるよう心掛けます。

上段：今年  
下段：昨年

## 9 法令等の遵守

	評価対象項目	評価結果（平均）	
40	法令、設置基準等を遵守し適正な運営がなされているか	3.89	(3.71)
		3.57	
41	学則は適正かつ実情に即したのものとなっているか	3.78	
		3.57	
42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.56	(3.60)
		3.71	
43	自己評価を実施し問題点の改善に努めているか	3.56	
		3.43	
44	自己評価結果を公開しているか	3.78	
		3.71	

### 《自己評価結果及び分析》

評価結果の平均では項目の中で一番良い結果となりました。個人情報保護法を遵守し、書面による制約だけでなく、教職員および学生の情報が確実に管理されるよう配慮しています。講師を招き危機管理講話を実施し、SNSの使用に関する留意事項も理解してもらえよう取り組みました。自己評価結果はホームページと広報紙に例年公開をしています。



《改善方法》

学則は学生のためのものであり、特にカリキュラムに関してはより効率よく学ぶためにも、必要に応じ変更が成されるよう全員が内容を理解し意識していきます。

自己評価は継続して行い、現状を検証するとともに見直しを行っていきます。それらの結果はホームページや広報誌でも公開することにより、教職員はその意味と重要性を理解するよう努めます。

上段：今年  
下段：昨年

10 社会貢献

	評価対象項目	評価結果（平均）	
45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.22	(3.33)
		3.00	
46	学生ボランティア活動を奨励し、支援しているか	3.44	(3.29)
		3.57	

《自己評価結果及び分析》

学校の施設（体育館）は、夜間・週末に地域の諸団体の申請により利用されています。

理学療法関連および社会貢献に関するボランティア活動の依頼があれば、掲示と共に説明を行い、参加を促しています。例年通り関連法人からの依頼をいただき、数人の学生が参加しました。教員もボランティア会場に足を運び、雰囲気や学生の表情を確認しました。社会勉強になるだけでなく、貢献したことの意味や交流関係の広がりを学んでいます。

《改善方法》

例年通り地域の伝統行事に依頼を受けて多くの学生が参加し、主催者からも喜ばれています。駅までの通学路の清掃も行い、社会的貢献活動の意味や利点を伝え、継続されるよう取り組みます。また、障害を持った方々と触れ合う機会があれば、積極的に参加を促していきます。

上段：今年  
下段：昨年

11 意見要望の把握及びその活用

	評価対象項目	評価結果（平均）	
47	学生から意見、要望を聞く体制が整備されているか	3.44	(3.28)
		3.29	
48	保護者から意見、要望を聞く体制が整備されているか	3.67	(3.14)
		3.71	
49	地域住民等第三者から意見、要望を聞く体制が整備されているか	2.89	(3.14)
		2.57	
50	学生からの意見、要望を学校運営に反映させる体制が整備されているか	3.11	(3.14)
		3.00	

《自己評価結果及び分析》

学生と保護者からの意見、要望を聞く体制に関しては、良好な結果といえます。保護者には、情報配信システムや学年別懇談会の開催、面談の実施、学生状況に応じこまめに連絡を取った結果と判断します。

第三者からの意見を伺う機会の設定は現在ありませんが、地区の区長さんや近隣の方々との簡単な意見交換や会話の他、地区行事参加の時に情報を得るように心掛けています。地域と合同で開催する学園祭も定着し、交流を含め話し合いの場ももたれています。

#### 《改善方法》

今後「職業実践専門課程」に向け、各方面からの意見、要望を取り入れる体制を整備していく必要があります。情報を発信するばかりではなく、特に地域の方々や第三者からの意見・要望を伺う体制づくりが必要です。法人としての取り組みでもあるため、組織での対応が必要と考えます。

保護者懇談会への参加者は多く、顔を見て情報交換ができることが、学生対応にも生かされています。今後は内容の充実を図っていきます。